

平成31（2019）年度公益財団法人偕行社事業計画書

〔平成31（2019）年4月1日～新元号2（2020）年3月31日〕

（※以下、年度表記については、本年度に限り、西暦で表記する。）

1 方針

偕行社は、戦没者及び自衛隊殉職者等の慰霊顕彰並びに自衛隊に対する必要な協力等を柱に各種事業を推進して防衛基盤の強化拡充に寄与し、もってわが国の平和と福祉に関する国政の健全な運営の確保に資する。

この際、元幹部自衛官等の会勢の拡大と予算収支の改善に努め、会務運営基盤の縮小を最小限に止める。

2 主要考慮事項

（1） 戦没者及び自衛隊殉職者等の慰霊顕彰

引き続き、慰霊顕彰事業を行いつつ、わが国における戦没者等の慰霊顕彰の現状に鑑み、偕行社としての慰霊顕彰の在り方について検討する。

（2） 自衛隊に対する必要な協力

ア 自衛隊の諸活動に対して、必要な協力を推進する。

イ 自衛隊が必要とする協力内容の把握に努め、部外協力団体・自衛隊の研究員等と連携して、安全保障・近現代史・教育問題等の研究内容を深め、その成果を防衛諸団体との協同による政策提言に反映する。

その際、研究の内容や成果を積極的に自衛隊に対して提供するとともに、広く国民・政治家への啓蒙活動に活用する。

（3） 会勢の拡大

ア 元幹部自衛官等の入会促進

引き続き、各地偕行会の協力を得て部内出身等元幹部自衛官会員数の増加を図るとともに、元高級幹部自衛官及び法人賛助会員の入会促進に努める。

イ 現職幹部自衛官等の偕行社に対する理解の促進

各事業を通じて、偕行社の目的及び事業内容等について、現職幹部自衛官や法人賛助会員の理解の促進に努める。また、幹部候補生に対する紹介を重視して、幹部候補生学校における広報を充実させる。

ウ 会員との連絡態勢の強化

退会防止のため、事務局、入会促進特別委員（入会促進協力特別委員を含む。）及び会員との連絡態勢を強化する。

（4） 予算収支の改善

年間を通じて、効率的な経費の運用による支出の低減と収益の向上に努め、2019年度予算の収支を改善する。

(5) 収支均衡予算の早期回復

会費収入・資産運用収入等の見通し及び将来体制検討委員会の検討成果（現職幹部自衛官及び法人賛助会員にとって魅力ある偕行社の姿、事業の優先順位等）を踏まえ、各事業の進め方（支出の減少、収益の増大等）について検討し、収支均衡予算の早期回復のための方策を明らかにする。

(6) 各地偕行会に対する支援

ア 協力関係を基本として、各地偕行会との協力態勢を更に強化するとともに、関係友好団体との連携を促進させつつ、各地偕行会の活動基盤の充実を支援する。

イ 各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携（活性化）要領について、検討する。

(7) 将来体制検討成果の反映

将来体制検討委員会の検討内容の深化を図り、中期的な視点で逐次年度事業計画に反映させる。

3 主要実施事項

(1) 公益目的事業

ア 慰霊・援護事業（公1）

(ア) 4・10月を除く第3水曜日に、靖國神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑・自衛隊殉職者慰霊碑に対する月例参拝を実施する。

なお、1月の月例参拝は、賀詞交換会と連携して実施する。

(イ) 市ヶ谷台慰霊祭を9月中旬に実施する。

この際、努めて元幹部自衛官会員の参加を促す。

(ウ) 靖國神社・各地護國神社の例大祭及び政府や協力団体の行う慰霊・顕彰事業に積極的に参加・協賛する。

(エ) 各地偕行会と連携し、英霊の慰霊顕彰並びに殉職自衛隊員追悼要領について検討する。

また、自衛隊遺族の援護のため防衛弘済会の行う援護基金活動に協力する。

(オ) 各地偕行会が行う、地元で散在する戦没者慰霊碑等の調査・整備に協力する。

(カ) 戦没者遺骨収集法に基づく事業に関わる関係団体の活動に協力する。

(キ) 英霊の慰霊顕彰を国の事業とすることについて、研究を進める。

イ 安全保障に関する研究及び発表（公2-1）

(ア) 「激変する東アジア情勢と日本の防衛を考える(仮題)」をテーマとして研究し、東アジア情勢の変化と今後の米中露の動向を分析し、米国の安全保障・外交政策や日本の安全保障戦略上の課題を明らかにする。その成果を隔月の研究発表会（講座）を通じて、啓蒙活動を推進する。

この際、安全保障委員会の意見として必要がある場合には、偕行社提言として発表することを考慮する。

(イ) 部外有識者・協力団体研究員等との研究交流を一層深め、研究内容の深化及び充実を図る。

(ウ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。研究員の優れた研究発表については、つとめて『偕行』への投稿を勧め、更に一般誌等への推薦・紹介を行う。

- (エ) 年度計画による隔月の研究発表会（講座）においては、聴講者との意見交換を重視するが、更に発表会終了後、研究員による自由討議の時間を設け、切磋琢磨し研究内容を深める。
- (オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に近現代史研究委員会と共同して、研究員夏季セミナーを実施する。
- (カ) 第11回シンポジウム（2020年3月）では、東アジア情勢の変化を受けた「新防衛大綱」の評価について総括し、問題点を明らかにして解決策特に、陸上自衛隊の課題と対策を発信する。公表テーマについては、8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (キ) 国内外の情勢変化に応じて、必要な場合には臨時研究発表会（講座）を実施する。
- (ク) 政策提言及び入会促進等に資するため、防衛政策等、特に自衛官及び元自衛官の処遇に関する研究を行う。
- (ケ) 2019年度安全保障講座予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第1

ウ 近現代史に関する調査・研究及び発表（公2-2）

- (ア) 2019年度から3カ年「大東亜戦争史」をテーマとして研究する。本年度は、戦争に至るターニングポイントとなる重大な事象について、特に「情報」の視点から調査・研究し、大東亜戦争史を新たな側面から解明する。
併せて戦後から現在に至る他国との「歴史認識問題」について、努めて客観的な視点から調査・研究を継続し、その問題の本質を明らかにする。
- (イ) 年度計画による隔月の研究発表会（講座）においては、各研究員の発表に加え、部外研究者を招聘し講座の活性化を図る。
この際、講座開催日を土曜日とし現職自衛官の出席が容易になるよう配慮する。また、発表終了後の研究員による自由討議を行い更に研究内容を深める。
- (ウ) 「歴史認識問題」については、研究員相互の勉強会を通じ軽易な資料集を作成し、これを主として現職自衛官（各級指揮官、駐在武官等）に提供し、その啓蒙の一助とする。
- (エ) 各研究員の研究成果の活用については、その一部を『偕行』に掲載するとともに、各地偕行会の要請に応じ適任の講師を派遣し講演等を実施することにより当該偕行会の活性化に寄与する。
- (オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に安全保障委員会と共同して、研究員夏季セミナーを実施する。
- (カ) 第11回シンポジウム（2020年2月）では、「大東亜戦争に至るターニングポイント—情報を焦点に（仮題）」を公表テーマとする。招聘部外者等の細部については8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (キ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。
- (ク) 引き続き旧軍・自衛隊草創期の資料を収集するとともに、偕行社に寄せられるマスコミ・軍事研究者・部外者等からの質問・調査依頼について、可能な限り協力する。
- (ケ) 2019年度近現代史研究講座予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第2

エ 教育問題の研究（公2-3）

- (ア) 道徳の検証の一環として、軍人が体現した道徳の事例について、引き続き研究する。

- (イ) 教育問題について、識者の講演等を適時行い、委員等の識見等の向上を図る。
- (ウ) 研究成果を適時、『偕行』誌上を通じてその普及を図る。
- (エ) 部外組織との連携に努める。

オ 自衛隊に対する協力（公3）

- (ア) 自衛隊の行う国際平和協力活動・災害派遣等の活動に対し、自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励・協力活動に参加・協賛する。
この際、各地偕行会との連携に留意する。
- (イ) 国の安全保障に関する自衛隊の幹部教育等に対し、他の防衛協力団体と連携をとりつつ、講師派遣等で支援するとともに、必要な情報を提供する。
- (ウ) 陸自幹部候補生学校卒業式への参加等により各種行事等に協力するとともに、陸自教育訓練研究本部学生及び防衛大学校学生との交流を深めることに留意する。
- (エ) 部隊等の記念式典に参加又は祝電を打電する。

カ 定期刊行誌『偕行』の発行（公4-1）

- (ア) 偕行社の公益広報誌の性格を重視し、会員の研究論説、シンポジウムや研究会等の報告、部外研究者の記事や協力団体の論文との交換掲載、一般マスコミとは別の観点から自衛隊の活動周知等、幅広い内容で類似誌とは異なる広報媒体であるように努める。
この際、各種の会員に配慮した内容構成に留意するとともに、現職幹部自衛官の読者に配慮する。
- (イ) 別冊「花だより」・「つどい」編纂と相まって、全国に居住する会員の親睦と結束、会員の入会促進に資する広報誌として、内容の魅力化に努める。このため、「各地偕行会だより」の充実にも努める。また、「偕行現代考」を企画継続して、現代風潮に対する会員の意見を掲載することにより、会員の投稿意欲の向上を図る。
- (ウ) 誌面に余裕のある時は、古いバックナンバーの記事で現在の読者に参考となるような軍事史再録も行う。
- (エ) 部外有識者、公立図書館、陸自の各部隊・機関の長及び地方協力本部長等に寄贈するほか、会員以外にも積極的に販売する。

キ 広報活動（公4-2）

- (ア) 『偕行』及びホームページを主要手段として、防衛基盤の強化・拡充に資する対外広報を重視して広報する。
特に、安全保障・近現代史の研究成果及びシンポジウム成果の発表に留意する。
- (イ) 『偕行』の誌面を補完するホームページの活用に留意する。
- (ウ) ホームページの内容を適時に更新するとともに、魅力化に努める。
- (エ) ホームページを補完するためのフェイスブック及びインスタグラムを最大限に活用する。
- (オ) メールマガジンの活用による積極的な情報発信のため、登録者数の増加を推進する。
- (カ) 陸自幹部自衛官に対し、偕行社を広報するため、修親会の機関誌『修親』に広告を掲載する。
- (キ) 安全保障・近現代史シンポジウムを広報するため、朝雲新聞等に広告を掲載する。
- (ク) 法人会員等に広報用カレンダーを配布する。

(2) 収益事業

ア 会館の運営 (収1)

- (ア) 『偕行』やホームページ等を活用するとともに、呼びかけ等積極的な集客努力を継続する等、昨年度に引き続き、あらゆる方面からの情報収集・意見聴取を行い、集客及び接客に関する改善策を追求する。
- (イ) 公益目的事業利用率の拡大、使用料金の値上げ等により会館の収益向上に努める。
- (ウ) 会館運営の在り方について、事務局は、引き続き厚生委員会の協力を得て新しい視点で創意と改善努力を傾注する。

イ 出版物の販売 (収2)

- (ア) 『偕行』及び『雄叫』の部外販売箇所の拡大に努めるとともに、引き続き販売を促進する。
- (イ) 全国陸軍墓地の調査結果である冊子『陸軍墓地』の頒布を引き続き推進する。
- (ウ) 偕行社と日本郷友連盟との共同著書「憲法改正提言と各国の憲法『国防なき憲法』への警告」の部外販売箇所の拡大と頒布を、引き続き促進する。

(3) 厚生活動

- ア 談話室と会議室の有効利用及び利用者の便宜を図るため、厚生委員会は積極的に改善意見を提出して事務局に協力する。
- イ 第10回文化祭(芸能発表を含む。)を、11月上旬に実施する。
- ウ 偕行社の文化的な伝統を継承しつつ、会員の福利厚生活を充実するため、偕行社文化・スポーツ活動を拡充・促進する。この際、自衛隊及び部外の活動との連携・協同を進める。
- エ 各地偕行会及び自衛隊各駐屯地と連携し、偕行社の美術展示を促進する。

(4) 元幹部自衛官等の入会促進

- ア 元幹部自衛官の当面の目標体制を5,000名以上とする。
- イ 入会促進特別委員会におけるB・U出身若年期委員及び部内出身委員を充実するとともに、各地偕行会・入会促進協力特別委員との連携を強化し、もって元幹部自衛官等の入会促進を図るとともに、全国的入会促進基盤を強化する。
- ウ 引き続き定年前幹部自衛官の偕行社に対する理解を深め、事後の入会促進に資するため、小平学校業務管理集合教育学生の偕行社訪問研修及び各方面総監部が実施する業務管理集合教育において「偕行社についての説明会」を実施する。
- エ 幹部候補生学校卒業後40周年記念行事の機会を活用した入会促進業務を推進する。
- オ 入会案内資料を再編集する。

(5) 各地偕行会に対する支援

ア 活動基盤の充実支援

引き続き、次の支援を行いつつ、慰霊援護を含む偕行社の在り方検討結果を踏まえ、各地偕行会に対する支援について検討する。

- (ア) 護国神社及び陸軍墓地等の慰霊祭並びに殉職自衛隊員追悼式への参加を支援する。
- (イ) 地元の自衛隊の行う各種行事等への参加を支援する。
- (ウ) 地元から派遣される自衛隊の国際平和協力活動及び災害派遣部隊等に対する激励・協力活動を支援する。

(エ) 要請に応じて、適任の講師を派遣して、総会等の実施を支援する。

(オ) 地元で散在する戦没者慰霊碑等の調査・整備に協力する。

イ 各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携

将来体制検討委員会における偕行社の在り方検討の結果に基づき、各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携（活性化）要領について、検討する。

(6) 将来体制検討

2017年度における将来体制検討委員会の検討内容を深化させるため、偕行社の在り方について検討を継続する。

4 主要会議等

(1) 総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2019年10月11日(金)

(2) 全国偕行会会長会同・・・・・・・・・・・・・・・・2019年10月10日(木)

(3) 評議員会(年2回実施)

ア 定時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2019年 6月 8日(土)

イ 臨時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2020年 3月14日(土)

上記の他必要の都度実施

(4) 理事会(通常3ヵ月ごとに実施)

ア 通常・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2019年 5月23日(木)

2019年 9月 5日(木)

2019年12月12日(木)

2020年 2月 6日(木)

イ 臨時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・上記の他必要の都度実施

(5) 業務連絡会議(年4回実施)

2019年 5月 9日(木)

2019年 7月11日(木)

2019年11月14日(木)

2020年 1月16日(木)

(6) 各委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・毎月又は2～3ヵ月ごとに実施

2019年度安全保障講座予定表

年月日(曜日)	講座	講師	テーマ
4月18日(木)	第64回定期講座	福本出氏	グレーゾーン対処の課題
6月20日(木)	第65回定期講座	兵頭慎治氏	ロシア・欧州の最新情勢
8月22日(木)	第66回定期講座	石原敬浩氏	スマートパワーの最前線ーシャープパワーへの の対抗としての戦略的コミュニケーションー
(9月12日(木))	(特別講座)	未定	未定
10月24日(木)	第67回定期講座	渡部悦和 研究員	米国の最新情勢
12月19日(木)	第68回定期講座	宮寄泰樹 研究員	中国の最新情勢
2月13日(木)	第69回定期講座	梶原好生氏	人工知能・ロボットの脅威最前線
3月	シンポジウム	未定	未定

2019年度近現代史研究講座予定表

年月日(曜日)	講 座	講 師	テ ー マ
5月18日(土)	特別講座	小谷 賢 氏	日本軍のインテリジェンス
7月27日(土)	第79回定期講座	片山博仁 研究員	ノモンハン事件と情報
9月28日(土)	第80回定期講座	坂本祐信 研究員	南部仏印進駐の情報活動と意思決定
10月26日(土)	特別講座	池田十吾 氏	米国から見た対日政策—情報を焦点にして
11月23日(土)	第81回定期講座	永江太郎 研究員	日本の対外政策と情報
1月	第82回定期講座	戸部良一 氏	対中政策と情報
2月	シンポジウム	未定	大東亜戦争に至るターニングポイント
3月	第83回定期講座	下平拓哉 氏	海軍情報から見た大東亜戦争